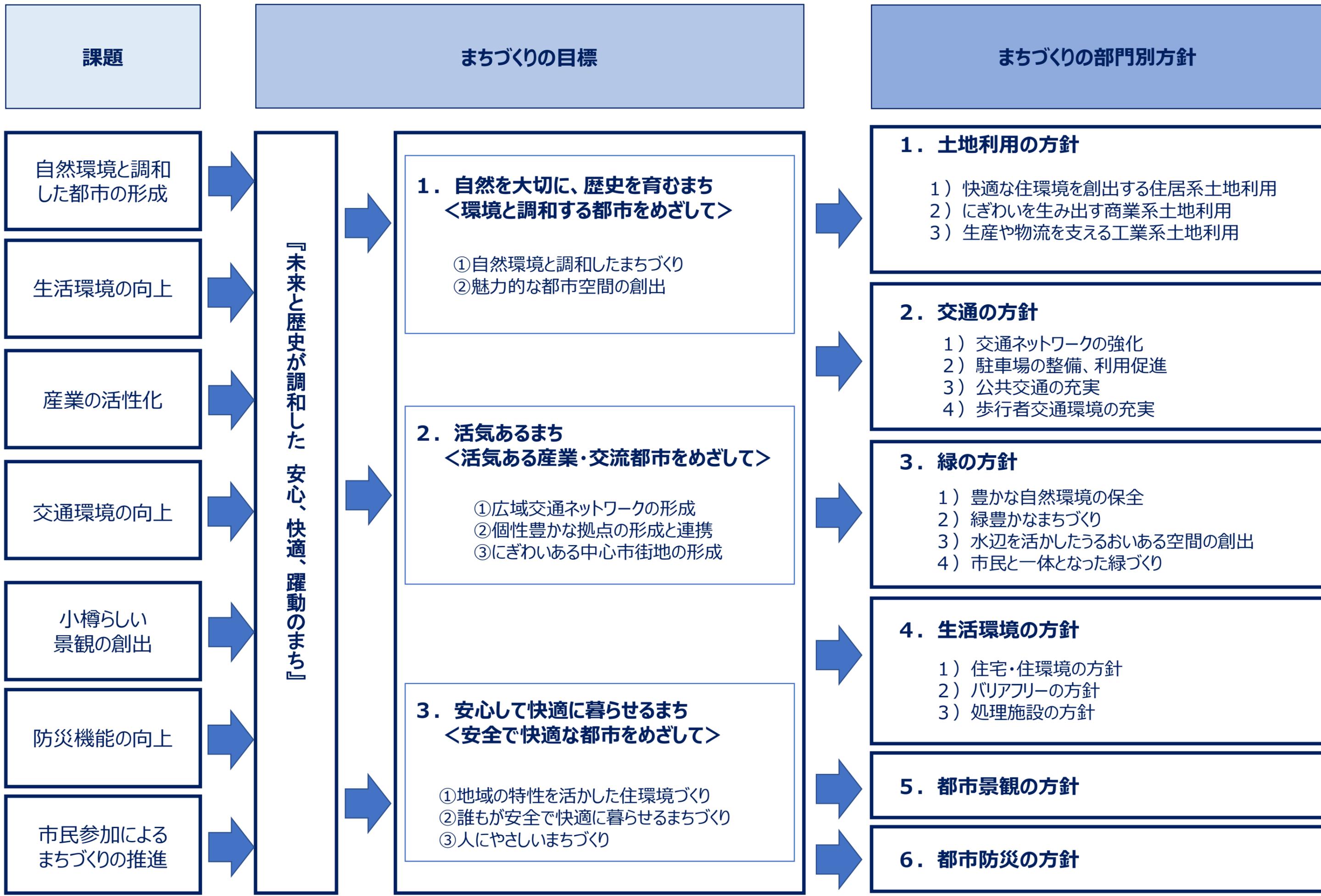


第2次小樽市都市計画マスタープラン

第2回策定委員会会議資料

～現行 小樽市都市計画マスタープランの成果～



参考図

3. 「第3章 まちづくりの部門別方針」の成果

2. 交通の方針【成果】

項目	本文（抜粋）	主な施策・計画・事業等	主な実績値	市民アンケート	今後の課題
<p>【基本的考え方】 交通は、日常生活や経済活動と密接な関係にあり、特に道路は生活する上で欠くことのできない都市基盤です。現状をみると交通混雑や駐車場対策、自然環境への配慮や高齢社会への対応など様々な課題を抱えています。これらの多様な課題に対応し、将来へ向けた活力ある小樽を創造するために、安全で快適な、人にやさしい交通環境の実現をめざします。</p>					
1) 総合的な交通体系を強化します	・後志と道央圏の交通結節点として、 広域交通機能を強化 します。 ・都市計画道路の整備を推進し、産業や物流機能などを支える 交通網の充実を図ります 。 ・騒音、振動、大気汚染や地球温暖化への対応など、 地球環境に配慮した交通社会の実現 につとめます。 ・都市防災の観点から、 避難路などの機能を合わせ持つ交通環境の形成 につとめます。	《都市計画》 都市計画道路 《関連計画》 小樽市環境基本計画、小樽市温暖化対策推進実行計画、地域防災計画、津波避難計画、緊急輸送道路ネットワーク計画、北海道新幹線新小樽（仮称）駅周辺まちづくり計画、南小樽駅周辺地区バリアフリー基本構想策定など	《計画》 南小樽駅周辺地区バリアフリー基本構想策定（平成28年度） 北海道新幹線新小樽（仮称）駅まちづくり計画策定（平成29年度） 《事業》 北海道横断自動車道 ・平成30年度開通予定 ・フルジャンクション化決定（平成29年度） 銭函駅生活交通改善事業実施（平成29年度） ・EV2基設置 ・多機能トイレ設置 ・スロープ設置	これまでのまちづくりに対する取組 	・北海道横断自動車道開通や新幹線駅開業に伴う効果を生かした施策が必要。 ・長期未整備の都市計画道路の見直し検討が必要。 ・駐車場法改正に伴い、駐車場整備計画の必要性の検討が必要。 ・北海道横断自動車道4車線化の早期着手に向けた要望をしていくことが必要。 ・道路 D 要な予算の確保
2) バランスのとれた交通環境の実現をめざします	・ 歴史的な街並みが楽しめる道づくり を進めます。 ・「小樽市駐車場整備計画」の策定や駐車場情報の提供などにつとめ、 交通の円滑化 を図ります。 ・バリアフリー化など 安全性を考慮した歩行者空間の創出 につとめます。 ・ 公共交通機関の連携 につとめます。	《事業》 北海道横断自動車道、小樽間建設促進事業、縦貫線整備事業（国道中）、臨港道路新設改良事業（小樽港縦貫線）、街路事業、駐車場マップによる情報提供、小樽市中小企業等振興条例第9条に基づく設備総合資金（融資）、小樽市中小企業等振興条例第3条に基づく商店街近代化施設設置事業助成（助成金）、小樽市における外国人旅行者の移動容易化のための言語バリアフリー化調査事業、銭函駅生活交通改善事業など	《環境基準》 自動車交通騒音測定・面的評価 ・近接空間 : 95.9%適合 ・非近接空間 : 97.2%適合（平成28年度） 《避難路》 海拔表示板（150箇所）及び避難誘導看板設置（19箇所）	道路や交通網の整備状況 （資料2 P5）	・「道の駅」の位置付けの必要性も含め検討が必要。 ・持続可能な交通ネットワークの形成が必要。 ・港湾施設の老朽化対策のための財源確保。 ・歴史的建造物の持続的な保全。 ・歩道緑化について沿道住民との合意形成が必要。
<p>方針</p>					
1) 交通ネットワークの強化	①広域的な路線等の整備 ②都市の機能を強化する路線等の整備				
2) 駐車場の整備、利用促進	・「小樽市駐車場整備計画」を策定。 ・駐車場建設の促進につとめます。				
3) 公共交通の充実	①広域輸送体系の確立 ②都市内交通環境の充実				
4) 歩行者交通環境の充実	・歴史的街並みを楽しみながら、安全に回遊できる散策ネットワークの創出。 ・安心して歩くことのできる空間を確保。 ・快適な歩行者空間の整備を図るとともに、安らげる空間の確保。 ・安全で快適な歩行者空間の形成。				

- A. 現行小樽市都市計画マスタープラン「第3章 まちづくりの部門別方針」の基本的な考え方や具体的な取組み内容（抜粋）
- B. 現行小樽市都市計画マスタープラン「第3章 まちづくりの部門別方針」について、取組状況を整理したもの
- C. 第2次小樽市都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査「問3 小樽市のこれまでのまちづくりについてどのように感じているか」の結果
- D. 「A～C」を踏まえて、「今後の課題」を示したもの

0. 成果について

- ・現行計画の部門別方針に基づき策定・実施した主な実績をとりまとめ、各部門の取り組みに対する評価として市民アンケート(資料1)の結果を位置づけた。
- ・課題については、第2次都市計画マスタープランの策定を見据え検討が必要な事項をまとめている。

1. 土地利用の方針【成果】

項目	本文(抜粋)	主な施策・計画・事業等	主な実績値(H15~)	市民アンケート	今後の課題
【基本的考え方】					
海と山に囲まれ平地が少ない本市の地形的特性や土地利用の経緯、実態などを考慮しつつ、豊かな自然環境の保全、快適な生活環境の確保、活力ある産業の振興などが適切に図られるよう、調和のとれた土地利用を進めます。また、丘陵の緑により区分された地域ごとに計画的な土地利用を誘導し、人口の減少や少子高齢化などの社会動態も考慮した、 利便性の高いコンパクトな市街地の形成 をめざします。					
1) 秩序ある快適な市街地の形成をめざします	都市機能を計画的に整備する 市街化区域の範囲は、概ね現状維持 を基本とします。	《都市計画》 小樽都市計画区域、・札幌圏都市計画区域 用途地域、地区計画、防火地域又は準防火地域、高度地区、高度利用地区、特別用途地区(特別工業地区、特別業務地区第1種・第2種)、臨港地区 《関連計画》 小樽市中心市街地活性化基本計画、小樽市景観計画、ロードヒーティング更新計画、道路ストック計画、橋りょう長寿命化計画など 《事業》 小樽市公共賃貸住宅長寿命化計画に位置付けられた事業、市街地再開発事業、街路事業、企業誘致促進事業など	《市街化区域面積》 H14 4,243ha H30 4,301ha 58ha増 《用途地域》 10箇所、7回変更 《地区計画》 1地区、1回決定 8地区、7回変更 《事業》 既存借上公営住宅事業 ・1棟 4戸 (H29年度より開始) 《計画》 北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画(H29年度策定) 小樽市中心市街地活性化計画(H20年度策定)	これまでの取組土地の使われ方(資料2P5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化を踏まえた土地利用のあり方の検討が必要。 ・社会状況や経済状況の変化に対応した土地利用のあり方の検討が必要。 ・中心市街地や本市特有の景観を生かしたまちづくりの検討が必要。
2) 地域の特性を活かします	住居系・商業系・工業系などの土地利用は適切な配置につとめ、中心部のにぎわいや郊外部の落ち着きなど 地区ごとに個性ある都市形成を誘導 します。				
3) 高度利用や、未利用地の有効活用を進めます	既成市街地は、公共施設の整備や計画的な土地利用の誘導等により、住環境の改善につとめます。 中心市街地は、土地の高度利用と都市機能の更新を図るため 市街地の再開発を促進し、街なか居住と商業などが複合したにぎわいある空間の形成 をめざします。				
方針					
1) 快適な住環境を創出する住居系土地利用	①低層住宅ゾーン ②中高層住宅ゾーン ③一般住宅ゾーン				
2) にぎわいを生み出す商業系土地利用	①中心商業ゾーン ②住商複合ゾーン ③沿道サービスゾーン ④観光・歴史・レクリエーションゾーン				
3) 生産や物流を支える工業系土地利用	①工業流通ゾーン ②住工共生ゾーン				

3. 「第3章 まちづくりの部門別方針」の成果

2. 交通の方針【成果】

項目	本文（抜粋）	主な施策・計画・事業等	主な実績値(H15～)	市民アンケート	今後の課題
【基本的考え方】					
交通は、日常生活や経済活動と密接な関係にあり、特に道路は生活する上で欠くことのできない都市基盤です。現状をみると交通混雑や駐車場対策、自然環境への配慮や高齢社会への対応など様々な課題を抱えています。これらの多様な課題に対応し、将来へ向けた活力ある小樽を創造するために、 安全で快適な、人にやさしい交通環境の実現 をめざします。					
1) 総合的な交通体系を強化します	<ul style="list-style-type: none"> ・後志と道央圏の交通結節点として、広域交通機能を強化します。 ・都市計画道路の整備を推進し、産業や物流機能などを支える交通網の充実を図ります。 ・騒音、振動、大気汚染や地球温暖化への対応など、地球環境に配慮した交通社会の実現につとめます。 ・都市防災の観点から、避難路などの機能を合わせ持つ交通環境の形成につとめます。 	《都市計画》 都市計画道路	《計画》 南小樽駅周辺地区バリアフリー基本構想策定（H28） 北海道新幹線新小樽（仮称）駅まちづくり計画策定（H29）	これまでの取組道路や交通網の整備状況（資料2P5） 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道横断自動車道開通や新幹線駅開業に伴う効果を生かした施策が必要。 ・長期未整備の都市計画道路の見直し検討が必要。 ・駐車場法改正に伴い、駐車場整備計画の必要性の検討が必要。 ・北海道横断自動車道4車線化の早期着手に向けた要望をしていくことが必要。 ・道路整備等に必要な予算の確保。 ・「道の駅」の位置付けの必要性も含め検討が必要。 ・持続可能な交通ネットワークの形成が必要。 ・港湾施設の老朽化対策のための財源確保。 ・歴史的建造物の持続的な保全。 ・歩道緑化について沿道住民との合意形成が必要。
2) バランスのとれた交通環境の実現をめざします	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な街並みが楽しめる道づくりを進めます。 ・「小樽市駐車場整備計画」の策定や駐車場情報の提供などにつとめ、交通の円滑化を図ります。 ・バリアフリー化など安全性を考慮した歩行者空間の創出につとめます。 ・駅などの交通結節点の機能強化を図り、公共交通機関の連携につとめます。 	《関連計画》 小樽市環境基本計画、小樽市温暖化対策推進実行計画、地域防災計画、津波避難計画、緊急輸送道路ネットワーク計画など	《事業》 街路事業 礼文塚通他5路線都計画道整備延長 L=82.52km(H14) L=86.97km(H29) 北海道横断自動車道 ・H30年度開通予定 ・フルジャンクション化決定（H29） 銭函駅生活交通改善事業（H29） ・EV2基設置 ・多機能トイレ設置 ・スロープ設置		
方針					
1) 交通ネットワークの強化	①広域的な路線等の整備 ②都市の機能を強化する路線等の整備	《環境基準》 自動車交通騒音測定・面的評価 ・近接空間：95.9%適合 ・非近接空間：97.2%適合（H28） 《避難路》 海拔表示板（150箇所）及び避難誘導看板設置（19箇所）（H26～27）			
2) 駐車場の整備、利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・「小樽市駐車場整備計画」を策定。 ・駐車場建設の促進につとめます。 				
3) 公共交通の充実	①広域輸送体系の確立 ②都市内交通環境の充実				
4) 歩行者交通環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的街並みを楽しみながら、安全に回遊できる散策ネットワークの創出。 ・安心して歩くことのできる空間を確保。 ・快適な歩行者空間の整備を図るとともに、安らげる空間の確保。 ・安全で快適な歩行者空間の形成。 				

3. 「第3章 まちづくりの部門別方針」の成果

3. 緑の方針【成果】

項目	本文（抜粋）	主な施策・計画・事業等	主な実績値(H15～)	市民アンケート	今後の課題
<p>【基本的考え方】</p>					
<p>市民生活にうるおいと豊かさを与える「緑」は、自然環境の保全、レクリエーション、防災、景観形成など多様な役割をもっています。</p>					
<p>本市では、「小樽市緑の基本計画」を策定し（H15年度策定予定）、緑の保全と創出、緑化の推進など、都市と自然環境との良好な共存・共生関係をめざします。</p>					
<p>1) 自然を守っていきます</p>	<p>市街地背後の緑は雨水貯留、土砂流出防止などの都市防災上重要な役割も果たしているため、これらの自然を保全し、次世代に継承していきます。</p>				
<p>2) 緑を増やしていきます</p>	<p>まとまった緑の保全を図るとともに、身近な公園などの緑の育成につとめ、それらを結ぶ緑のネットワークを形成します。</p>				
<p>3) 河川を大切にしていきます</p>	<p>今後とも、周辺の特性に応じた親しみのある河川環境の形成を図ります。</p>				
<p>4) 市民とのパートナーシップづくりを進めます</p>	<p>今後とも、市民が学び、ふれあうことのできる施設整備や緑化活動の支援など、市民とのパートナーシップづくりを進めます。</p>				
<p>方針</p>					
<p>1) 豊かな自然環境の保全</p>	<p>市街地に点在する樹林は重要な緑地として、良好な環境を保全します。</p>	<p>《関連計画》 地域防災計画、小樽市公園施設長寿命化計画など</p>			
<p>2) 緑豊かなまちづくり</p>	<p>①拠点となる公園の整備・充実 ②身近にふれあえる公園の整備・充実 ③道路緑化の推進 ④防災機能を有する公園整備</p>	<p>《事業》 未来につなぐ森づくり推進事業、小樽公園再整備事業、都市公園安全・安心事業、花と緑のまちづくり事業助成、公園花壇ボランティア、街路事業など</p>			
<p>3) 水辺を活かしたうるおいある空間の創出</p>	<p>うるおいが感じられる緑化や親水性の高い空間の創出につとめます。</p>				
<p>4) 市民と一体となった緑づくり</p>	<p>①パートナーシップの強化と緑化活動への支援 ② 豊かな自然環境にふれあえる拠点施設の充 ③ボランティア組織の育成実</p>				

《計画》
小樽市緑の基本計画策定（H16）
小樽市景観計画策定（H20）
小樽市森林整備計画
奥沢水源地保存・活用基本構想策定（H24）

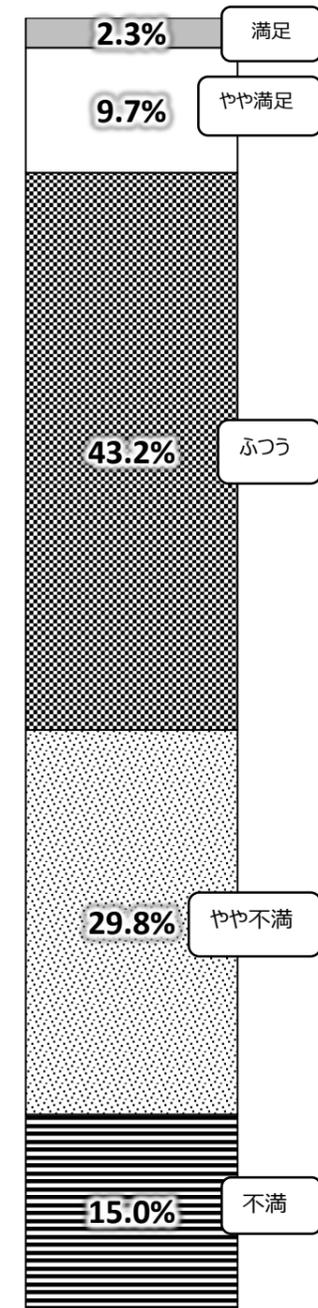
《都市公園》
・公園整備
街区公園：2公園
供用 91公園（H15）
93公園（H30）
・施設整備
遊具の更新 50公園
多目的WC新設 3公園

《防災》
小樽公園と手宮公園を緊急避難場所に指定

《環境保全》
・保存樹木等の指定
保存樹木7箇所
保全樹林6箇所

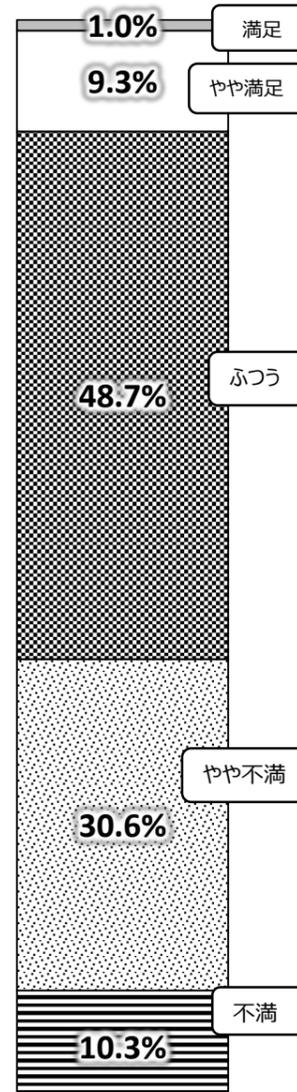
《市民》
・花いっぱいコンクール
・花と緑のまちづくり事業助成 25件

これまでの取組
公園や緑地、
水辺の整備状況
（資料2P5）

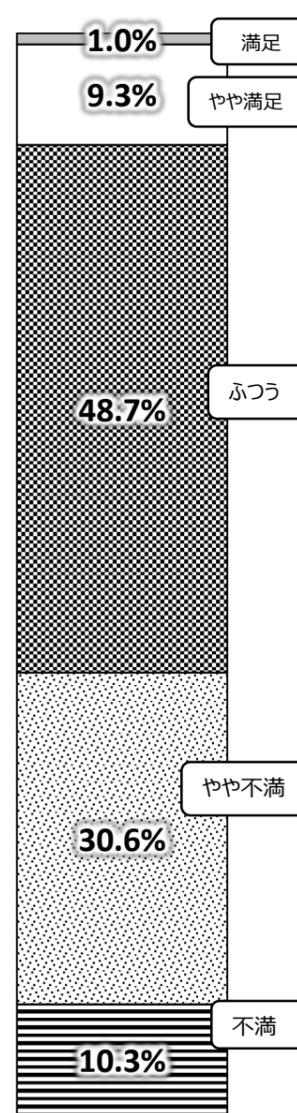


- ・長期未整備の都市計画公園見直しの検討が必要。
- ・指定された個人所有の保存樹木、保全樹林の持続的な保全。
- ・事業実施には、安定的な財源の確保が必要。
- ・避難場所への活用や防災機能を有する公園の整備に関する検討が必要。
- ・河川の継続的な監視が必要。
- ・市民参加の緑に関するイベントや参加団体・人数が年々減少している。
- ・公園整備など、国費補助の配当率低下による事業進捗の遅れ。

4. 生活環境の方針【成果】

項目	本文（抜粋）	主な施策・計画・事業等	主な実績値(H15～)	市民アンケート	今後の課題												
<p>(1) 住宅・住環境 【基本的考え方】 人口の減少や高齢化などの社会動向を考慮し、定住人口の増加を図る住宅施策を推進するとともに、冬の暮らしを快適なものとする生活環境づくりを進め、誰もが安心して、快適に住み続けられる住宅・住環境の形成につとめます。</p>																	
<p>● 快適に暮らせる住宅・住環境の向上</p>	<p>①良好な住環境の形成 ②良質な公営住宅の供給推進 ③良質な民間住宅建設の誘導</p>																
<p>● 若年者・ファミリー層の定住促進</p>	<p>①街なか居住の推進 ②未利用地の有効活用</p>	<p>《都市計画》 地区計画</p> <p>《関連計画》 第6次小樽市総合計画（基本計画・安全で快適な住みよいまち（生活基盤）・除排雪）、雨水管理総合計画、小樽市一般廃棄物処理基本計画など</p>	<p>《計画》 小樽市住宅マスタープラン策定（H26）</p> <p>《事業》 公営住宅 ・勝納住宅(H16) ・柵E住宅1～4号棟（H17～H24） ・若竹3号棟建替え（今年度完成）</p>	<p>これまでの取組 生活環境の整備状況 （資料2 P 5）</p>  <table border="1"> <caption>生活環境の整備状況 (資料2 P 5)</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>9.3%</td> </tr> <tr> <td>ふつう</td> <td>48.7%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>10.3%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	1.0%	やや満足	9.3%	ふつう	48.7%	やや不満	30.6%	不満	10.3%	
満足度	割合																
満足	1.0%																
やや満足	9.3%																
ふつう	48.7%																
やや不満	30.6%																
不満	10.3%																
<p>● 高齢者や障害者の住宅への支援</p>	<p>①公共住宅の確保 ②賃貸住宅への支援 ③住宅改造などへの支援</p>	<p>《事業》 既存借上公営住宅制度、小樽市バリアフリー等住宅改造資金融資制度、銭函駅生活交通改善事業、都市公園安全・安心事業、公共下水道事業、小樽雪あかりの路 など</p>	<p>住宅リフォーム助成事業 ・14件（H28～）</p> <p>既存借上公営住宅事業 ・1棟 4戸（H29～）</p>		<p>・地区計画変更の必要性の判断と現状の土地利用の検証を行う必要がある。</p> <p>・民間が行う施設建設は、経済動向により供給が変化する。</p> <p>・各種事業・助成を継続するための、財源の確保と継続の検討。</p>												
<p>● 雪や寒さに強い生活環境づくり</p>	<p>①雪に強い道路・交通の確保 ②雪や寒さに強い住まいづくり ③北国らしいライフスタイルの確立</p>																

4. 生活環境の方針【成果】

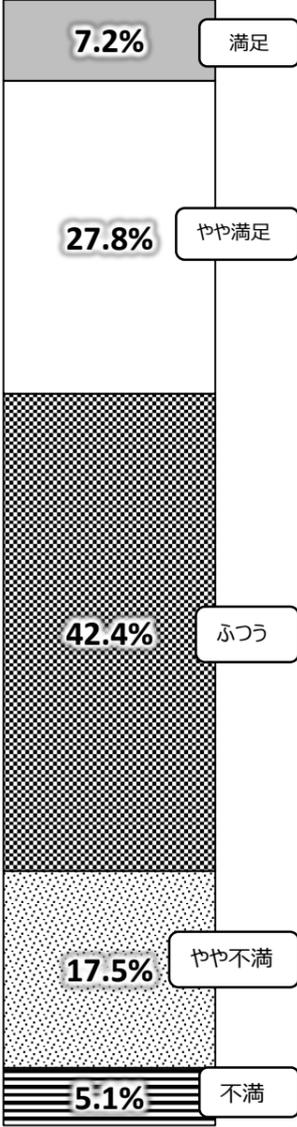
項目	本文（抜粋）	主な施策・計画・事業等	主な実績値(H15～)	市民アンケート	今後の課題												
<p>(2) バリアフリー 【基本的考え方】 本市の高齢化率は、道内主要都市の中でも高い比率にあります。 今後の本格的な高齢社会や地形的な特性を踏まえ、ノーマライゼーションの理念のもとに、すべての人が住み慣れた地域社会の中で暮らせる、人にやさしいまちづくりをめざします。 このため「北海道福祉のまちづくり条例」等に基づくまちづくりを進めるとともに、バリアフリーを含めたユニバーサルデザインに配慮した空間づくりにつとめます。</p>																	
<p>●歩行者空間の確保</p>	<p>車椅子などにも配慮した歩道のネットワークの形成や段差の解消などにつとめます。</p>																
<p>●公共交通機関施設のバリアフリー化</p>	<p>公共交通機関の施設における連続性のあるバリアフリーの整備を誘導します。</p>	<p>《都市計画》 地区計画</p>	<p>《計画》 南小樽駅周辺地区バリアフリー基本構想策定（H28）</p>	<p>これまでの取組 生活環境の整備状況 （資料2 P5） （再掲）</p>  <table border="1"> <caption>生活環境の整備状況（資料2 P5）</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>9.3%</td> </tr> <tr> <td>ふつう</td> <td>48.7%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>10.3%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	1.0%	やや満足	9.3%	ふつう	48.7%	やや不満	30.6%	不満	10.3%	
満足度	割合																
満足	1.0%																
やや満足	9.3%																
ふつう	48.7%																
やや不満	30.6%																
不満	10.3%																
<p>●誰もが利用しやすい建築物の整備</p>	<p>多くの人が利用する公共的な施設は、誰もが円滑に利用できる出入口や通路、階段、トイレなどの整備を進めます。</p>	<p>《関連計画》 第6次小樽市総合計画（基本計画・安全で快適な住みよいまち（生活基盤）・除排雪）雨水管理総合計画、小樽市一般廃棄物処理基本計画など</p>	<p>《事業》 銭函駅生活交通改善事業実施(H29) ・EV2基設置 ・多機能トイレ設置 ・スロープ設置</p> <p>公園多目的WC新設 3公園 (H25～)</p>		<p>・事業実施のための予算の確保</p> <p>・安全性を考慮した歩行空間の創出が必要。</p> <p>・公共交通機関施設には、民間の施設が多く含まれていることから、事業の実施は施設管理者の意向に左右される。</p>												
<p>●公園のバリアフリー化</p>	<p>公園の整備に際しては、バリアフリーを図り、誰もが利用しやすい施設整備につとめます。</p>	<p>《事業》 既存借上公営住宅制度、小樽市バリアフリー等住宅改造資金融資制度、都市公園安全・安心事業、公共下水道事業、など</p> <p>【再掲】</p>	<p>公共施設の新築・改築に伴うバリアフリー整備 10箇所 (H16～) ・保育所 2箇所 ・学校 3箇所 ・公営住宅 5箇所</p>		<p>・老朽化した施設の改修・更新時期を踏まえながら、計画的に事業実施を検討していく必要がある。</p>												

4. 生活環境の方針【成果】

項目	本文（抜粋）	主な施策・計画・事業等	主な実績値(H15～)	市民アンケート	今後の課題												
<p>(3) 処理施設 【基本的考え方】 海や河川などの水環境の保全やごみの減量化・再資源化などが近年大きな社会問題となっています。このことから、下水道やごみ処理施設などの生活関連施設の整備・充実につとめ、生活環境の向上を図ります。</p>																	
<p>● 下水道施設</p>	<p>①公共用水域の水質保全 ②浸水の防除 ③災害への対応 ④空間の多目的利用と周辺環境との調和</p>	<p>《都市計画》 地区計画</p> <p>《関連計画》 第6次小樽市総合計画（基本計画・安全で快適な住みよいまち（生活基盤）・除排雪）、南小樽駅周辺地区バリアフリー基本構想、雨水管理総合計画、小樽市一般廃棄物処理基本計画など</p>	<p>《計画》 小樽市上下水道ビジョン策定（H21）</p> <p>《施設》 北しりべし広域クリーンセンター（H19供用開始）</p>	<p>これまでの取組 生活環境の整備状況 （資料2P5） （再掲）</p> <table border="1"> <caption>生活環境の整備状況 (資料2P5) (再掲)</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>9.3%</td> </tr> <tr> <td>ふつう</td> <td>48.7%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>10.3%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	1.0%	やや満足	9.3%	ふつう	48.7%	やや不満	30.6%	不満	10.3%	<p>・老朽化した下水道施設の改築・更新や施設の耐震化などの対策が必要。</p>
満足度	割合																
満足	1.0%																
やや満足	9.3%																
ふつう	48.7%																
やや不満	30.6%																
不満	10.3%																
<p>● ごみ処理施設など</p>	<p>①ごみ処理施設の整備 ②リサイクル施設の整備</p>	<p>《事業》 既存借上公営住宅制度、小樽市バリアフリー等住宅改造資金融資制度、銭函駅生活交通改善事業、都市公園安全・安心事業、公共下水道事業、など</p> <p style="text-align: right;">【再掲】</p>	<p>《普及》 （H15） ・上水道普及率99.8% ・下水道普及率97.7% （H28） ・上水道普及率99.9% ・下水道普及率98.9%</p>	<p>・費用対効果を含め計画の見直しの検討が必要。</p> <p>・中間処理施設の長寿命化を図るため、北しりべし廃棄物処理広域連合に協力し、計画的に施設維持を進める必要がある。</p>													

3. 「第3章 まちづくりの部門別方針」の成果

5. 都市景観の方針【成果】

項目	本文（抜粋）	主な施策・計画・事業等	主な実績値(H15～)	市民アンケート	今後の課題												
<p>【基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○独自性の確立：歴史・自然・文化などの“小樽らしさ”の保全と創造。 ○快適空間の創造：水と緑を生かしたうるおいあるアメニティ（快適な環境）の創造。 ○シンボル空間の創造：景観形成の核となるシンボル空間の創造。 ○街並みの個性化：地区特性を生かした個性的で調和のとれた街並みの創造。 ○自然の移り変わりの尊重：朝日・夕日・夜景などの時間の移り変わりや四季折々の変化を大切に都市景観の創造。 																	
<p>1) 緑の保全と創出</p>	<p>それらの自然を大切にするとともに樹木等の指定による保全、公園緑地等の整備、開発行為や事業所等における緑化などの推進につとめます。</p>	<p>《事業》 小樽市花と緑のまちづくり事業など</p>	<p>《計画》 小樽市緑の基本計画策定（H16） 小樽市景観計画策定（H20） 《指定》 歴史的建造物指定 16指定 小樽歴史景観区域 15地区指定 ・保存樹木等の指定 保存樹木7箇所 保全樹林6箇所 《事業》 小樽市花と緑のまちづくり事業 助成 25件</p>	<p>これまでの取組 街並み、景観 (資料2P5)</p>  <table border="1"> <caption>市民アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>7.2%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>27.8%</td> </tr> <tr> <td>ふつう</td> <td>42.4%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>17.5%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>5.1%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	7.2%	やや満足	27.8%	ふつう	42.4%	やや不満	17.5%	不満	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動事業などの継続的な取り組みに対する支援。 ・個人や民間所有となっている保存樹木や保全樹林、歴史的建造物の持続的な保全。 ・街並み景観の創出における市民意識の醸成が必要。 ・景観アドバイザー制度が事実上休止状態となっている。
満足度	割合																
満足	7.2%																
やや満足	27.8%																
ふつう	42.4%																
やや不満	17.5%																
不満	5.1%																
<p>2) 歴史的建造物の保全</p>	<p>歴史と文化を伝える歴史的建造物を保全し、その歴史的景観を継承することにより、小樽らしい個性的なまちづくりを進めます。 また、歴史的建造物の保全にあたっては、所有者や使用者の理解・協力のもと、生活環境の向上や経済活動の振興に配慮しながら外観保全につとめます。</p>																
<p>3) 建築物などのデザイン誘導</p>	<p>大規模建築物等を計画する場合は、周辺や都市全体の景観と調和するように、規模やデザインなどについて誘導します。</p>																
<p>4) 「都市景観形成重要ゾーン」の整備</p>	<p>小樽港マリーナ・築港地区から堺町・色内・小樽運河を経て、旧手宮駅跡地までの地区は中央通とともに「都市景観形成重要ゾーン」と位置付けされており、今後とも好ましい都市景観の形成を誘導します。</p>																
<p>5) 協働による景観づくり</p>	<p>特別景観形成地区の指定や歴史的建造物などに対する資金的支援につとめるとともに、景観アドバイザー制度等の活用による民間事業への適切な誘導など、総合的な景観づくりを進めます。 また、都市景観賞の実施や景観フォーラムなどの開催により、情報の提供と意識の高揚につとめ、景観協議会などの制度を通じて、地域の住民による自主的な景観活動への支援につとめます。</p>																

3. 「第3章 まちづくりの部門別方針」の成果

6. 都市防災の方針【成果】

項目	本文（抜粋）	主な施策・計画・事業等	主な実績値(H15～)	市民アンケート	今後の課題
【基本的考え方】					
地震時の津波や建造物の倒壊、大規模火災の発生、浸水などの災害に対する都市防災の機能強化を図ることが必要です。 このため、都市基盤施設の耐震化、不燃化の促進、ライフラインの確保、河川の改修などにより、 安全で安心して住むことができる都市づくり をめざします。					
1) 密集地区における防災性の向上	建物の更新に合わせて共同化や耐震化への誘導を行うとともに、狭あい道路の改善や空地の確保につとめるなど、 防災性の向上を図ります。			<p>これまでの取組 都市防災の 対策状況 (資料2P5)</p> <p>0.9% 満足 8.9% やや満足 58.3% ふつう 23.4% やや不満 8.5% 不満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存建物を残したままの耐震化やセットバックなどの対応が難しい。 ・H32年度までの耐震化率の目標を達成することが難しい。 ・道路や処理施設などの更新あたっては、財源に限りがあることから、優先順位をつけ実施されるが、完了までに長期的な期間が必要である。 ・未整備の河川が多く、河川用地の確保が難しい。 ・災害防止施設建設の用地確保。 ・老朽施設を含む公共施設の維持管理や更新、施設の耐震化等には、多大な予算と期間を要するため、継続的な財源確保が必要。
2) 建築物の耐震性の向上	災害時に避難所や防災拠点となる公共施設は、耐震診断を進め 耐震性の強化を図り、安全性の向上につとめます。 また、その他の建物についても、更新時や改善時における耐震化・不燃化の指導につとめます。		《計画》 小樽市地域防災計画 (H29) 北海道緊急輸送道路ネットワーク計画 (H28) 小樽港将来ビジョン (H19) 石狩湾新港将来ビジョン (H24) 《耐震》 要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断 22件 《指定》 土砂災害警戒区域 224箇所 土砂災害特別警戒区域 212箇所 《事業》 避難所 63箇所 《事業》 防災拠点の新築に伴う耐震化 ・消防施設 2箇所 ・医療施設 2箇所 ・教育施設 1箇所 ・処理施設 1箇所		
3) 防災拠点機能の強化	災害時の拠点となる 応急対策施設の機能の充実を図るとともに、避難場所として民間宿泊施設等との連携 につとめます。 また、公園緑地は避難地やヘリポートに活用するなど、防災機能の強化を図ります。	《都市計画》 防火・準防火地域			
4) 避難・救援動線の強化	避難・救援道路となる 主要幹線・幹線道路などの整備や橋梁の耐震化を図るとともに、沿道建物の不燃化を促進し、救援動線の確保 につとめます。	《関連計画》 小樽市耐震改修促進計画、橋りょう長寿命化計画、小樽市公共施設等総合管理計画など			
5) 河川整備の推進	災害に備えるため、周辺の特性に応じ、河川環境の保全に配慮しながら護岸や 河床の整備を進めます。	《事業》 街路事業、河川改良事業、老朽施設等更新改良事業など			
6) がけ崩れなどの防止	がけ崩れ災害を未然に防止するため、「急傾斜地崩壊危険区域」、「がけ崩れ危険区域」等における 防災工事を計画的に進めるとともに、造成地については宅地造成等規制法などの法令に基づき指導等 を行います。				
7) ライフライン施設の安全対策	電気、ガス、上水道、電話など市民生活を支える施設は、 災害時における機能の確保や耐震化を促進 します。		小樽市津波ハザードマップ作成 2万部(H29) 小樽市防災マップ作成 1万部(H29)		
8) 港湾の防災機能の強化	防災機能の強化のため、 港湾施設の耐震化や防波堤の機能強化 につとめます。				

4. 計画策定後の取り組みによる成果【総括】

1. アンケート調査結果の比較

	道路や交通網の整備状況について	公園や緑地の整備状況について																																										
現行都市マスタープラン実施後の主な整備状況	《都市計画道路》 ・整備路線 幸線 (H12) 望洋線(H13) 和宇尻中央通(H14) 礼文塚通(H16) 中央通線(H16) 銭函新道(H17) 小樽中央線 [国道5号] (H18) ・整備延長 H12年度 L ≒ 7.1 km H30年度 L ≒ 8.7 km	《都市公園》 ・公園整備：街区公園 1公園 (H18) 1公園(H23) ・遊具の更新：50公園 (H21～H23・H25～H29) ・多目的トイレ設置：望洋東公園(H25) 手宮緑化植物園相談所(H26) 入船公園(H28)																																										
主な事業効果	バス路線開通：幸線 バス路線延伸：望洋線 交通環境改善等：和宇尻中央通、礼文塚通、銭函新道、 小樽中央線 [国道5号] 中央通線 道路防災：国道5号 歩行者交通環境改善：臨港線、国道5号（電線類地中化）大通線（歩道改良）	利便性の向上及び安全の確保																																										
市民アンケート	<table border="1"> <caption>道路や交通網の整備状況に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>計画</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>普通</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現行計画 (H12)</td> <td>1.6%</td> <td>6.1%</td> <td>22.7%</td> <td>37.4%</td> <td>29.5%</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>第2次計画 (H30)</td> <td>1.5%</td> <td>7.6%</td> <td>38.0%</td> <td>37.8%</td> <td>15.1%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	計画	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	不明	現行計画 (H12)	1.6%	6.1%	22.7%	37.4%	29.5%	2.8%	第2次計画 (H30)	1.5%	7.6%	38.0%	37.8%	15.1%	0%	<table border="1"> <caption>公園や緑地の整備状況に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>計画</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>普通</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現行計画 (H12)</td> <td>2.7%</td> <td>10.6%</td> <td>34.2%</td> <td>30.9%</td> <td>18.0%</td> <td>3.5%</td> </tr> <tr> <td>第2次計画 (H30)</td> <td>2.3%</td> <td>9.7%</td> <td>43.2%</td> <td>29.8%</td> <td>15.0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	計画	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	不明	現行計画 (H12)	2.7%	10.6%	34.2%	30.9%	18.0%	3.5%	第2次計画 (H30)	2.3%	9.7%	43.2%	29.8%	15.0%	0%
計画	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	不明																																						
現行計画 (H12)	1.6%	6.1%	22.7%	37.4%	29.5%	2.8%																																						
第2次計画 (H30)	1.5%	7.6%	38.0%	37.8%	15.1%	0%																																						
計画	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	不明																																						
現行計画 (H12)	2.7%	10.6%	34.2%	30.9%	18.0%	3.5%																																						
第2次計画 (H30)	2.3%	9.7%	43.2%	29.8%	15.0%	0%																																						

・道路や交通網の整備状況について：「不満」がほぼ半減している。

・公園や緑地の整備状況について：「普通」は増加しているものの、満足度の低い回答は、ほぼ同率となっており満足度に変化は無い。

2. 総括（全体をととして）

「道路や交通網の整備」では「不満」がほぼ半減しており、「街並み、景観」では満足度の高い回答が多かった。

この結果から、これらについては**一定の事業効果が得られたもの**と考えられる。

一方で各項目のアンケート結果では「普通」が最も多いため、**重点を置くことを求められている項目**（資料2P57）について、少子高齢化の進展や防災意識の高まりなどの社会情勢の変化を踏まえ必要な取り組みを進める。